

2021年度 第3回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2021年10月20日（水）20時

場所：オンライン（Zoom）会議

出席：長谷川 和宏（担当理事）、川口 善治（アドバイザー）大島 寧（委員長）明田 浩司、石井 賢、今城 靖明、鈴木 亨暢、竹内 大作、高畑 雅彦、出村 諭、二階堂 琢也、長谷 齊

欠席：福岡 宗良

杏林舎／田村、轟間、明松（記）

報告事項

1, JSR の投稿資格について

代表者は日本脊椎脊髄病学会または関連学会の会員である事を要すると記載があるがこの会員は単年度会員も含む事が確認された。

2, JSR 投稿状況

一同査収した。

審議事項

1、二重投稿疑惑の論文について

・経緯

JSR 12 巻 5 号に掲載された論文「成人脊柱変形患者におけるロコモティブシンドロームの解析～脊椎骨盤パラメータと術後 2 年成績に着目して～」(J. Spine Res. 12: 703-708, 2021) について他誌（英文誌：Journal of Orthopaedic Science）へ掲載されている論文と研究結果が異なっている件で、どちらかのデータが間違っているのではないかという旨の質問が読者より届く。

- 杏林舎田村：二重投稿かどうか判断する上で何%以上という規定はないが内容が概ね 50%以上が重複している場合、また図表が全く同じものを使用しているのに先行論文の情報が何も記載されていない場合は二重投稿と判断される場合がある。
今回の論文もどのぐらい重複部分があるかが論点になってくる。
- 長谷川理事：対象症例の重複数が判断材料になるのではないか。
- 高畑委員：JSR に掲載された数が 47 件、英文誌が 40 件となっている。
- 大島委員長：Table の間違いは著者が認めており先行論文を引用しているので完全に一緒という印象ではない。
- 川口アドバイザー：1 年フォローから 2 年フォローになっており、JOS の論文引用もされているのであれば二重投稿ではないと考える。

- 杏林舎田村：意図的ではなく Table5 については著者が新しい解析データに変える事を失念していたとの事なので、JSR で修正をすれば今回は悪質な二重投稿という扱いにはならないと考えられる。
- 長谷川理事：二重投稿疑義について連絡してきた読者は外国人らしいが、これまで、日本語と英語の論文について同様の指摘はなかった。しかし、サマリーが英語の和文誌は指摘をされる可能性があり、認識すべきでことである。
- 高畑委員：Fig1A と図 2、abstract と要旨も似ているので著者に確認した方がいいのではないか。
- 大島委員長：他のデータも一度著者に確認してもらった方がよい。
- 竹内委員：今回問い合わせがあった海外読者のメール文を見ると学術的な意味以外での問い合わせにも見える。
- 石井委員：海外の研究費でダブルパブリケーションを見つけるシステム開発費があり実績を上げると更に研究費が貰えるらしい。
- 川口アドバイザー：編集委員会として適切に対応しないと JSR の論文の品位が問われるので今回の件も 2 年フォローがあったなど明確に説明できるようにし、要旨の部分など似ている部分についてはしっかり確認しておくべきである。

→結論：本件は二重投稿とは判定しないが、先行英語論文と重複した英語サマリーや類似の図表は二重投稿の疑似を生むので、著者には厳重注意し、データを再度確認の上、掲載論文の修正をお願いすることとする。

2、優秀論文賞の呼名について

学術集会の抄録の評価の上位に執筆依頼をしたものに「優秀論文」と論文に表記をしているが、日本脊椎脊髄病学会特集号（1・2・5・9号）に掲載された論文から特に優秀な2論文を表彰する「優秀論文賞」と混同される方がいらっしゃるため名称の変更が必要なのではないか。

- 大島委員長：後日長谷川先生と川口先生と 3 人で整理した上で先生方にご意見を伺うが事前にメール等で名称について案があれば送ってほしい。

→結論：委員に名称案を募集の上、後日検討する事とした。

3、論文の質について

論文のクオリティが低く査読者が査読を辞退してしまう事がある。掲載本数を維持するために腐心するが限界がある。

- 鈴木委員：査読者を検索かける際に現在、評議員しか挙がってこないが投稿した人にも査読者として検索できるようにならないか。
- 杏林舎田村：現在 SSRR の登録方法を踏襲しており評議員の先生と DE の先生が個人的に登録された先生だけ査読者として表示される様になっている。

- 川口アドバイザー：評議員になるには **SSRR** の査読をする事も条件となっているがその条件に **JSR** は入っていないので若手の先生にも査読をしてもらった方がいいのではないか。
- 鈴木委員：登録したくてもメールアドレスがわからない先生が多いので、今まで投稿した著者を査読者として登録してほしい。
- 杏林舎田村：現在までに論文を投稿した著者を査読者として登録する事は可能。
- 長谷川理事：理事会で報告する必要がある為、理事会で了承を得た後に登録作業を開始してほしい。

→結論：理事会で了承確認後、登録作業をする予定となった。